



Title	政治的リクルートメント研究の展開（2・完）：全体像と課題
Author(s)	菅谷，優太
Citation	阪大法学. 2024, 74(1), p. 213-234
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95810
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

政治的リクルートメント研究の展開(2・完)

——全体像と課題——

菅 谷 優 太

第1章 はじめに

第2章 政治的リクルートメント研究の全体像

第1節 全体として何を明らかにしてきたのか

第2節 2000年以降の政治的リクルートメント研究の展開

第3章 選出過程に着目する研究—候補者選定方式、立候補の意思決定

第1節 候補者選定方式—選定方式は何をもたらすのか、何に規定されるのか

第2節 立候補の意思決定—何が立候補の意思決定を規定するのか

第3節 残された課題

第4章 選出された政治家の特徴に着目する研究—社会的属性、特性

第1節 政治家の社会的属性—なぜ過少或いは過剰代表なのか（以上、73巻6号）

第2節 政治家の特性—何が政治家の能力や質、イデオロギーを規定するのか

第3節 残された課題

第5章 おわりに（以上、本号）

第2節 政治家の特性—何が政治家の能力や質、イデオロギーを規定するのか

本節では、政治家の特性を扱う実証分析を検討していく。具体的には、数理モデルに基づく政治家の能力や質についての研究を扱った上で、アメリカの議会を対象とした議員のイデオロギーに関する研究を検討する。

(1) 政治家の能力、質

政治家の能力や質については、その規定要因に関して研究が行われてきた。政治家の能力や質は主に教育程度により測定されてきたが、これには批判もあり（Carnes and Lupu 2015）、IQテストや面接によるリーダーシップ評価を指

標とする分析も行われている (Dal Bo et al. 2017)。

まず、公職を得ることによる見返りの程度が政治家の質の規定要因として指摘されている。見返りには、金銭的なもの、非金銭的なものがあるが、非金銭的な見返りは測定が難しいため、給与による金銭の見返りの測定が行われてきた。1993年から2001年のイタリアの地方政府を対象とした分析からは、高い給与が、学歴の高い候補者をひきつけることが明らかになった (Gagliarducci and Nannicini 2013)。ブラジルの地方議員を対象とした分析からも同様の傾向が明らかになっており、給与が高いほど、学歴から測定される議員の質は高い傾向が見られた (Ferraz and Finan 2008)。また、フィンランドの国会議員を対象とした分析からは、給与が高いほど、女性候補者の学歴が高くなる傾向が見られた (Kotakorpi and Poutvaara 2011)。一方で、例外的に、欧州議会を対象とした分析からは給与の増額による議員の質の低下が指摘されている (Fisman et al. 2015)。

さらに、給与以外の金銭の見返りについても分析されている。ブラジルを対象とした分析からは、連邦から地方政府への移転財源が増加するほど汚職は増加し、それに伴って、学歴により測定された市長候補の質も低下することが明らかになっている (Brollo et al. 2013)。ここまでの研究をまとめると、給与のような合法的見返りは、質の高い政治家の選出に概ね繋がるものの、非合法の見返りは、質の低い政治家の選出に繋がると考えられる。

次に、政治家の質の規定要因として選挙の競合度合も指摘されており、選挙が競合するほど、選出される議員の質は高くなるとされる。1994年から2006年のイタリアの上院と下院を対象とした分析では、質の高い候補者は競合している選挙区に擁立されていた (Galasso and Nannicini 2011)。議員の質は教育年数、前職の給与、地方政府での経験により測定されており、競合している選挙区で選ばれた議員は議会での欠席が少ない傾向もみられた。同じくイタリアを対象とし、1985年から2008年の地方政府を扱った分析からも、政治的に競合している自治体ほど、学歴、前職から測定した市長、議員の質は高い傾向が見られた (De Paola and Scoppa 2011)。さらに、1958年から2012年のフランスの下院を対象とした分析でも、競合している選挙区から選出された議員ほど、積

極的に議会活動に取り組んでいた（Gavoille and Vershelde 2017）。こうした傾向は多国間比較の結果からも支持されており、独裁主義の国に比べて、民主主義国では教育水準の高いリーダーが選出されている（Besley and Reynal-Querol 2011）。これは、民主主義国での選挙には実質的な競争があるためである。

選挙の競合度合については、公職に関する積極的格差是正措置に着目した研究も行われている。これは先の研究成果を踏まえると、女性といった過少代表の属性に公職を割り当てることは競合度合の低下、質の低い政治家の選出をもたらすと考えられるためである。実際、インドにおいて、村議会の議長が女性に割り当てられる場合、議長の教育年数や政治経験は低下する傾向が指摘されている（Chattopadhyay and Duflo 2004）。また、カーストに基づく割り当てが行われる際も、公衆衛生の改善から示唆されるリーダーの質は低下していた（Lamba and Spears 2013）。

しかしながら、積極的格差是正措置の負の効果はインド以外の国においては必ずしも明確ではない。これは、是正措置が政治家の質を低下させるかは、候補者が選出される母体である人口の特徴に左右されるためである。多数派の属性と過少代表の属性がもつ学歴といった資源の格差が大きい国の場合、是正措置によって質の低下がもたらされる可能性が高くなる。実際、そうした格差がインドと比べて小さいイタリアやスペインでは、ジェンダー・クオータの導入後も政治家の質の低下は生じていなかった（Baltrunaite et al. 2014; Bagues and Campa 2021）。

このように、これまでの研究の多くが議員の能力や質を教育程度により測定する一方で、これに批判的な研究もある。Carnes and Lupu（2015）は、学歴の高い人々が、よい政治的リーダーになるのかを、経済成長、不平等、社会不安、国家間紛争、失業、インフレ、議会生産性、汚職といった幅広い指標に注目して分析し、大学教育を受けたリーダーはそうでないリーダーに比べて、同程度かそれ以下の成果しかあげていないことを明らかにした。

こうした教育程度による測定への批判を踏まえて、Dal Bo et al.（2017）は、兵役テストにより収集されたIQとリーダーシップ評価を用いて能力を測定し

ている。調査の対象となっているのはスウェーデンの男性であり、IQ は問題解決能力、数的能力、言語能力、空間能力、技術的理解力といった基準を用いた筆記試験で測定されている。また、リーダーシップは、認知能力テストで一定以上のスコアを出した人のみ実施される半構造的面接を通して評価されている。面接の評価基準は機密情報であるが、兵役と関連したパーソナリティ特性、軍事機能の処理能力を測定した上で、4つのパーソナリティ特性にスコアを縮約しているとされる。

このような指標による測定から、国会議員と市長の能力は、代表される人口よりもかなり高いことが明らかになった。また、出身の社会階級は偏っておらず均一であった。このような政治家群が形成されている原因を、Dal Bo et al. (2017) は需要と供給の両側面から検討しており、需要に関しては、比例代表制により、政党が様々な出身階級の候補者を擁立できている可能性がある。供給については、内発的な動機が質の高い候補者の出馬に結びついている可能性がある。これは、高いIQとリーダーシップをもつ人々は、公職以外でも高収入を得られるため、公職から得られる報酬（外発的な動機）が出馬に結びついているとは考えにくいためである。

以上で見てきたように、能力や質を規定する要因としては、金銭的な見返り、選挙の競合度合が指摘されており、給与が高いほど、選挙が競合するほど、候補者や選出される政治家の能力や質は高くなる。

また、公職に関する積極的格差是正措置の導入により、インドでは質の低い政治家が選出されたものの、イタリア、スペインでそうした傾向は見られなかった。これは、属性間で資源の不均一が顕在化している国でのみ質の低下が生じるためである。

（2）議員のイデオロギー

アメリカでは、二大政党の分極化がしばしば指摘される。20世紀半ばまで、中道的であった共和党と民主党のイデオロギーは、1970年代以降、徐々に離れてきたとされる（岡山 2015）。

この原因について政治的リクルートメント研究の視点から需要、供給に着目（阪大法学）74（1-216） 216〔2024.5〕

した分析が行われてきた。まず、需要については、従来、中道の候補者を支援してきた政党リーダーの影響力の低下が分極化をもたらしているとされる（Persily 2015）。政党リーダーが中道の候補者を選定するのは、ダウنزのモデルで指摘される通り、選挙に有利なためである。実際、候補者のイデオロギーと選挙での強さの関係を扱った分析は、下院選で極端なイデオロギーの候補を指名した政党の得票、獲得議席は低下する傾向を指摘している（Hall 2015）。他方で、国や州レベルの政党リーダーと異なり、郡レベルの政党リーダー（特に共和党）は中道の候補者を選挙に有利と認識していないとされる（Broockman et al. 2021）。国や州レベルの政党リーダーが、豊富な情報を用いて、中道の候補者を有利と認識できている一方で、郡レベルの政党リーダーはそうした候補者の強さを正しく評価できていない可能性がある。また、政党リーダーによる中道候補者の支援を、選挙に有利との認識によるものというよりも、政党リーダーのイデオロギー的な選好によるものと指摘する研究もある（Hassell 2018）。

供給については、分極化した議会が、中道の候補者予備軍の政治的野心を低下させる可能性が指摘されている（Thomsen 2014）。候補者予備軍として取り上げられているのは州議会議員であり、分極化した議会においては、中道の候補者予備軍と政党のイデオロギー的な一致度合いが低下し、それにより中道の候補者予備軍の政治的野心が低下するとされる。分析からは、穏健な共和党の州議会議員、穏健な民主党の州議会議員は、極端な立場の議員に比べて出馬しにくいことが明らかになった。また、保守系メディアが、極端な候補者予備軍の政治的野心を高めている可能性もあり、フォックスニュースの影響で選挙に有利と認識した共和党候補者は、民主党の現職がいる選挙区に参入していた（Arceneaux et al. 2020）。

以上の研究をまとめると、アメリカの議会が分極化してきた要因は、需要、供給の両サイドにあると考えられる。需要側に関しては、中道の候補者を擁立してきた政党リーダーの影響力の低下が指摘されている。供給に関しては、中道の候補者予備軍における政治的野心の低下、保守系メディアの影響が指摘されている。

第3節 残された課題

以上で見てきたように、政治家の社会的属性については、なぜ過少代表なのか、過剰代表なのかが扱われてきた⁽¹³⁾。また、政治家の特性については、能力・質を規定する要因は何か、極端なイデオロギーをもつ政治家が選出されているのはなぜかが問われてきた。以下では、それぞれの特徴を扱う研究に残されている課題を指摘する。

(1) 政治家の社会的属性

(1-1) 共通する課題

まず、社会的属性を扱う研究に共通する課題としては、本質主義 (Essentialism) への対応がある (Phillips 2020)。特定の属性の人々がもつ利益を一枚岩で捉える本質主義により、その属性の中での性別、人種、階級といった属性の違いは見えにくくなるとされる。これに対して提起されているのが、性別、人種、階級といった属性の交差性に着目するインターセクショナリティである (Crenshaw 1989)。これに従えば、黒人女性といった属性の把握がなされ、特定の利益をもつ可能性がある。

こうしたインターセクショナリティは、近年扱われつつあるが、様々な交差的属性の政治家は当該属性の有権者と比べてどのような状況にあるのか、仮に過少代表であるとする、それはなぜか、さらなる分析が必要である (Celis and Erzeel 2020; Ruedin 2020)。これまで取り組まれてきたエスニックマイノリティの女性を対象とした比較研究では、そうした交差的属性の政治家が少ないことが明らかになっており (Hughes 2013)、これに影響する原因として選挙制度、クォータ制が分析されている (Hughes 2011, 2016)。今後は、こうした制度を独立変数とする研究とともに、交差的属性の政治的野心、交差的属性に対する有権者、ゲートキーパーの評価を扱う研究も行われていく必要がある。

(1-2) 女性

次に女性については、多くの研究がなされており、過少代表の原因について概ね見解の一致が見られる⁽¹⁴⁾。ただ、需要の主体としてのゲートキーパーが女性を差別しているのかについては、分析する対象によって見解が分かれており検

討が必要といえる。

さらに、供給に関しての分析には、レアイベント問題への対処が必要になるが、この方法については課題が残る。一般有権者を対象に実際に立候補した経験があるかを尋ねた場合、そうした経験があると回答する人はほとんど観察できない。そのため、先行研究は、①元々ある程度政治的野心が高いと想定される職業の人々（法律家、経営者、教師、活動家）や地方議員を対象とした調査、②実際に立候補した経験ではなく立候補への関心を尋ねる、といった方法でこれに対処してきた。

しかし、2つの方法にはそれぞれ問題点がある。まず、①は、特定の社会的地位をもつ女性に分析の対象が絞られており、そうでない女性を扱うことができない。また、②は、初期の政治的野心である立候補への関心に調査が留まり、実際の立候補の経験や立候補を検討した経験を扱うことができない。立候補への関心と、立候補の経験や立候補を検討した経験は異なる傾向を持つ可能性もあるため、多段階での把握は重要である。したがって、できるだけ調査対象を特定のサブグループに限定せず、実際の立候補に至るまでの政治的野心を多段階で測定する方法を検討することが、求められている。

供給については、第3章で扱ったように、パーソナリティについての分析枠組みを用いた研究の余地も残されている。例えば、アメリカを対象とした分析からは、外向性、開放性が高い人ほど立候補を考える一方で、協調性、誠実性が高い人ほど立候補を考える可能性は低い傾向が明らかになっている（Dynes et al. 2019）。この結果に基づけば、女性の政治的野心の低さは、協調性、誠実性の高さに起因している可能性がある。

女性の国内研究については、需要の主体としての政党および供給に関して、さらに分析が必要と考えられる。政党に関しては、議員や候補者、ゲートキーパー、一般有権者を対象としたサーベイ調査を用いて女性を差別しているのかを分析する余地が残されている。また、供給についての量的分析でこれまで扱われてきたのは公職への関心のみであり、初期の政治的野心から実際に立候補するに至る過程を多段階で捉える必要がある。

(1-3) 移民、エスニックマイノリティ

次に、移民、エスニックマイノリティについては、供給、需要、制度に関して分析が行われてきたが、特に供給、需要については更なる分析が必要といえる。⁽¹⁵⁾供給に関しては、Dancygier et al. (2021) がスウェーデンを対象に移民の政治的野心は低くない傾向を明らかにしているが、他の国についても分析の余地が残されている。また、需要の主体である政党が及ぼす影響も分析されているが、こうした研究は女性についての研究を参照していることが多い (Ruedin 2020)。移民・エスニックマイノリティと女性とでは政党の候補者選定において異なるメカニズムが生じている可能性もあり、この点に関しては検討が必要である。例えば、政党が移民、エスニックマイノリティをあまり擁立しない場合、意図的に差別した結果なのか、そうしたコミュニティとの接触のなさによるものなのかを見分ける必要がある。女性と異なり、移民、エスニックマイノリティは地理的に隔絶されている場合もあるため、後者のメカニズムが働きやすい可能性がある。

(1-4) 世襲

世襲については、供給に関して分析の余地が残されている。親族に政治家がいる人の政治的野心は、そうでない人と比べて高いのか。また、もし高いとするとその原因は何か、検討が必要と考えられる。例えば、Fox and Lawless (2005) が指摘してきた立候補の資質についての自己認識が、親族に政治家がいる人の政治的野心を高めている可能性がある。また、政治家を輩出している家庭に生まれた人のパーソナリティは、外向的、開放的であり、そうした特性が政治的野心を高めているのかもしれない。ただ、人口全体に占める親族に政治家がいる人の少なさが、分析に必要となる調査の実施を難しくしていると考えられる。

(1-5) 労働者階級

労働者階級の研究は、アメリカを対象に需要、供給を扱い、過少代表の原因を明らかにしてきたが、他の国を対象とした分析も必要と考えられる。例えば、ラテンアメリカで議会に占める労働者階級の割合は5～25%であるが、有権者レベルでは60～90%が労働者階級である (Carnes and Lupu 2016)。また、

ヨーロッパでも、議会に占める労働者階級の割合が10%を超えることはまれとされる（Best and Cotta eds. 2000）。Carnes and Lupu（2016）は、アメリカに加えて、イギリス、アルゼンチンの有権者の態度を分析しているが、更に対象の国を増やした上で、需要の主体としての政党、供給についての分析も必要といえる。

（1－6） 若年層

次に、若年層の過少代表の原因については、供給、需要に関して課題が残されている。先行研究が着目してきたのは、選挙制度、被選挙権年齢といった制度、需要の主体としての有権者である。供給に着目して過少代表の原因を分析した研究は、これまで十分に行われていないため、若年層の政治的野心は低いのかを検証する研究が必要である。また、需要の主体としての政党についても研究の余地が残されている。これまで扱われてきたのは、政党の特徴が議員の年齢に影響を及ぼすかであり、より直截的にサーベイ調査を用いて政党が候補者擁立の際に若年層を差別しているのか分析することも可能といえる。

また、これまでの若年層についての研究が、主に分析の対象としてきたのは日本である（Eshima and Smith 2022; McClean and Ono 2020）。国際比較は行われているものの、日本以外の国を事例として取り上げた分析は、あまり行われておらず、検討の余地が残されている。

（1－7） 障害者

最後に、障害者の過少代表については、供給、需要、制度に関して課題が残されている。具体的には、供給に関して、障害者の政治的野心は低いのか、需要の主体である政党、有権者は障害者をどのように評価しているのか、といった点に関して更なる分析が必要と考えられる。選挙制度や政党の特徴と過少代表の関係に関しても、国際比較の余地が残されている。

ただ、Okura（2021）が指摘するように、障害のある政治家を測定することには困難が伴う。これは、障害のある場合でも政治家自身がそれを公表していないケースがあると考えられるためであり、量的分析を難しくしていると考えられる。

(2) 政治家の特性

(2-1) 政治家の能力、質

次に、政治家の特性を扱った研究の課題を検討する。まず、政治家の能力や質の研究については、その測定方法をめぐって議論がある。多くの先行研究で用いられてきた教育程度を用いた能力や質の測定には批判もあり、IQ テストや面接によるリーダーシップ評価による測定も行われている。教育程度、前職の種類、政治経験が能力や質を測定する指標として適切であるかについては検討が必要といえる。

さらに、政治家の質の規定要因の1つとして公職を得ることによる見返りが指摘されてきたが、測定の難しさから非金銭的な見返りは扱われてこなかった (Dal Bo and Finan 2018)。非金銭的な見返りをどのように測定するのかについての検討、こうした見返りを組み込んだモデルの構築が必要である。また、国内を対象とした政治家の能力や質に着目した研究はほとんどされておらず、分析の余地が大きい⁽¹⁶⁾。

(2-2) 議員のイデオロギー

アメリカでの議員イデオロギーの分極化は、需要と供給から分析が行われているが、双方に関して課題も残されている。政党が候補者を擁立する際、選挙での有利さを基準に、候補者予備軍のイデオロギーを判断しているのかについては、異なる選定のメカニズムを指摘する研究もあり、検討が必要である。供給についても州議会議員を対象とした研究が行われているが、イデオロギーが極端な人ほど、政治的野心の高い傾向は見られるのか、有権者を対象とした分析の余地が残されている。

ここまで、選出された政治家の特徴に着目する研究に関して、各社会的属性、各特性に着目した上で課題を指摘してきた。次章では、政治的リクルートメント研究全体を俯瞰した上での課題について検討する。

第5章 おわりに

本章では、これまでの研究の展開を踏まえ、政治的リクルートメント研究全 (阪大法学) 74 (1-222) 222 [2024.5]

体を俯瞰した上での課題について検討する。具体的には、政治的リクルートメント研究の2つの着眼点である「政治家の選出過程」と「選出された政治家の特徴」を架橋する分析、「選出された政治家の特徴」に含まれる各社会的属性、特性を横断的に扱う実証分析の必要性を指摘する。

第一の課題は、「政治家の選出過程」が「選出された政治家の特徴」に及ぼす影響について見解が分かれている点にある。冒頭で述べたように、政治的リクルートメント研究の着眼点は2つであり、「政治家の選出過程」における候補者の選び方は「参加」と「競争」の次元から、「選出された政治家の特徴」は「代表」と「応答性」の次元から民主主義の質を左右する。ただし、ここまで扱ってきた研究を踏まえると、前者と後者は独立しておらず、前者は後者に影響を及ぼすことがわかる。この際、重要になるのは、「参加」と「競争」の次元における民主主義の質の高さが、「代表」と「応答性」の次元の民主主義の質の高さをもたらす可能性もあれば、そうでない可能性もあるということである。この点について検討するためには、2つの着眼点である「政治家の選出過程」と「選出された政治家の特徴」を架橋する研究が更に求められる。

具体的には、包括的な「参加」が社会構成を反映した「代表」をもたらすのかについて、見解が分かれている。Rahat and Hazan (2010) によれば、政党内での候補者を選定するセレクトレイトが排他的であるほど、議会における代表は社会構成を反映したものとなるとされており、オーストラリアを対象とした分析からはこうした傾向がみられた (Gauja and Cross 2015)。この場合、「参加」の次元における民主主義の質の低さが「代表」の次元における民主主義の質の高さをもたらすことになる。一方で、セレクトレイトが包括的であるほど、議会における代表は社会構成を反映したものとなるとの指摘もある (堤 2012, 2020)。したがって、「参加」が「代表」にどのような影響を及ぼすのかを分析すると共に、その結果次第では、各次元における民主主義の質の両立をどのように図るのかについても検討が必要といえる。

第二の課題は、「選出された政治家の特徴」に含まれる各社会的属性、特性を横断的に扱う分析が十分なされていない点にある。本稿は、ある社会的属性の政治家がなぜ少ないのかを中心に扱ってきたが、今後の政治的リクルートメ

ント研究の展開においては、過少代表であった社会的属性の政治家がなぜ増えたのかについて更に問われていくと考えられる。この背景には、世界各国で主に女性を対象として導入されている積極的格差是正措置の存在がある（Dahlerup ed. 2006; Krook 2009; 三浦・衛藤編 2014）。これにより、これまでの研究と異なり、各社会的属性を横断的に扱う分析が必要になる。

公職を過少代表の社会的属性に割り当てる積極的格差是正措置は、対象以外の社会的属性の記述的代表にも影響を及ぼす可能性が指摘されている。Phillips（2020）によれば、イギリスの労働党が導入した女性のみの公認候補者名簿（All-Women Shortlist）は労働者階級出身の議員を減少させたとされる。これは、労働者階級出身の男性が、中流階級出身の女性によって取って代わられたためである。一方で、他の社会的属性との交差性を考慮した割り当てが行われれば、特定の社会的属性を対象とする是正措置であっても、他の社会的属性の記述的代表の改善をもたらす可能性がある。こうした指摘を踏まえれば、ある社会的属性を対象とする是正措置が、他の社会的属性の記述的代表に及ぼす影響について分析される必要がある。

この際、求められるのは、各社会的属性の記述的代表を測定した上で、これらを横断的に扱う分析である。世界各国における女性、若年層の記述的代表は、列国議会同盟（Inter-Parliamentary Union）により測定されているが、これに加えて、移民・エスニックマイノリティ、労働者階級、障害者の記述的代表も測定される必要がある。そのためには、把握が難しいとされる移民・エスニックマイノリティ、障害者の記述的代表をどのように測定するかを検討も必要である。

その上で、ある社会的属性を対象とする是正措置が、他の社会的属性の記述的代表にどのような影響を及ぼすのかについての分析が求められる。これまで検討してきた研究動向を踏まえれば、過少代表の社会的属性についての分析は、それぞれの属性ごとに行われてきたといえる。しかし、例えば、ジェンダー・クオータが女性の記述的代表に及ぼす影響のみを分析した場合、それに伴い生じる可能性のある移民・エスニックマイノリティ、労働者階級、若年層、障害者への影響は見落とされることになる。これまでの先行研究と異なり、各社会

的属性を横断的に扱う分析が求められるのは、そのためである。

そして、こうした分析から得られる結果は、民主主義の質との関係で議論される必要がある。仮に、積極的格差是正措置が、対象とする社会的属性の記述的代表を改善していたとしても、その他の属性の記述的代表を後退させている場合、「代表」の次元における民主主義の質が改善されたとは言い難い。これは、「代表」の次元から民主主義の質を左右するのは、特定の属性の記述的代表に限定されないためである。一方で、是正措置がその他の属性の記述的代表も改善している場合、「代表」の次元における民主主義の質が改善されたといえる。また、是正措置が「競争」の程度を低下させ、政治家の能力や質、「応答性」を低下させる可能性についても分析されている。このように、是正措置の効果は、対象とされる社会的属性の記述的代表のみならず、民主主義の質を左右する各次元との関係での議論される必要がある。

以上のように、政治的リクルートメント研究全体を俯瞰すれば、「政治家の選出過程」と「選出された政治家の特徴」を架橋する研究、「選出された政治家の特徴」に含まれる各社会的属性、特性を横断的に扱う実証的分析が求められていることがわかる。こうした実証分析の結果は、「参加」、「競争」、「代表」、「応答性」の各次元における民主主義の質のみならず、各次元の総計としての民主主義の質との関係で議論される必要がある。また、仮に、特定の次元における民主主義の質の高さが他の次元の民主主義の質の低さにつながる場合は、質の高さを両立する方法はあるのか、どの次元の質が優先されるべきか、といった点に関して議論が必要である。

このように、今後の政治的リクルートメント研究においては、研究群ごとの分析の進展に加えて、各研究群を架橋、横断する視点が求められているといえる。

【謝辞】 査読に際しては、3名の匿名の査読者の方々から有益なコメントを頂きました。記して感謝申し上げます。

参考文献

- 浅古泰史, 2016, 『政治の数理分析入門』木鐸社.
- 浅野正彦, 2006, 『市民社会における制度改革』慶應義塾大学出版会.
- 芦谷圭祐, 2019, 「女性擁立の政党政治」『年報政治学』70(1): 316-344.
- 飯田健・上田路子・松林哲也, 2011, 「世襲議員の実証分析」『選挙研究』26(2): 139-153.
- 伊藤光利・田中愛治・真淵勝, 2000, 『政治過程論』有斐閣.
- 衛藤幹子, 2017, 『政治学の批判的構想』法政大学出版局.
- 大木直子, 2016, 「政党による『女性活用』」『生活社会科学研究』23: 1-15.
- 大倉沙江, 2021, 「障害等のある政治家に対する有権者の態度」『生活経済政策』293: 27-31.
- 岡山裕, 2015, 「CHAPTER 2 アメリカ二大政党の分極化は責任政党化につながるか」『日本比較政治学会年報』17: 29-55.
- 金東煥, 2014, 「候補者指名方式における開放と自民党地方組織」『政策科学』21(2): 81-98.
- 久保慶一・末近浩太・高橋百合子, 2016, 『比較政治学の考え方』有斐閣.
- 庄司香, 2011, 「世界の予備選挙」『選挙研究』27(2): 93-103.
- 庄司香, 2012, 「日本の二大政党と政党候補者公募制度」『学習院大学法学会雑誌』48(1): 307-341.
- 武田宏子, 2023, 「イギリスからの示唆」『学術の動向』28(2): 38-41.
- 谷口将紀, 2020, 『現代日本の代表制民主政治』東京大学出版会.
- 堤英敬, 2012, 「候補者選定過程の開放と政党組織」『選挙研究』28(1): 5-20.
- 堤英敬, 2019, 「自民党における候補者公募制度の採用と政党地方組織」『選挙研究』35(1): 76-89.
- 堤英敬, 2020, 「候補者リクルートメントの変容と政党組織」『法学研究』93(1): 470-494.
- 鶴谷将彦, 2011, 「候補者選定過程における政党執行部の影響力」『選挙研究』27(2): 32-44.
- 中久郎編, 1980, 『国会議員の構成と変化』政治広報センター
- 西川賢, 2016, 「選挙制度改革の政治学」『年報政治学』67(2): 37-55.
- 西村翼, 2020, 「政党の公認戦略と地元候補」『年報政治学』71(2): 280-302.
- 福元健太郎, 2003, 「参議院議員は衆議院議員よりもシニアか?」『年報政治学』54: 245-259.
- 福元健太郎, 2004, 「国会議員の入場と退場」『選挙研究』19: 101-110.
- 福元健太郎・中川馨, 2013, 「得票の継承に対する世襲の効果」『選挙研究』29(2): (阪大法学) 74 (1-226) 226 [2024.5]

118-128.

- 増山幹高, 2007, 「女性の政界進出」川人貞史・山元一編『政治参画とジェンダー』東北大学出版会, 321-345.
- 松林哲也・上田路子, 2012, 「市町村議会における女性の参入」『選挙研究』28(2): 94-109.
- 三浦まり・衛藤幹子編, 2014, 『ジェンダー・クオータ』明石書店.
- 吉野孝, 2005, 「アメリカ政治学における政治的リクルートメント研究」『早稲田政治経済学雑誌』358: 14-31.
- 吉野孝・今井浩・谷藤悦史編, 2001, 『誰が政治家になるのか』早稲田大学出版会.
- Akirav, Osnat, 2010, "Candidate Selection and a Crowded Parliament," *Journal of Legislative Studies*, 16(1): 96-120.
- Arceneaux, Kevin, Johanna Dunaway, Martin Johnson, and Ryan J. Vander Wielen, 2020, "Strategic Candidate Entry and Congressional Elections in the Era of Fox News," *American Journal of Political Science*, 64(2): 398-415.
- Ashe, Jeanette and Kennedy Stewart, 2012, "Legislative Recruitment," *Party Politics*, 18(5): 687-707.
- Bagues, Manuel and Pamela Campa, 2021, "Can Gender Quotas in Candidate Lists Empower Women? Evidence from a Regression Discontinuity Design," *Journal of Public Economics*, 194, Article 104315.
- Baltrunaite, Audinga, Piera Bello, Alessandra Casarico, and Paola Profeta, 2014, "Gender Quotas and the Quality of Politicians," *Journal of Public Economics*, 118: 62-74.
- Barker, Fiona and Hilde Coffe, 2018, "Representing Diversity in Mixed Electoral Systems," *Parliamentary Affairs*, 71(3): 603-632.
- Besley, Timothy and Marta Reynal-Querol, 2011, "Do Democracies Select More Educated Leaders?," *American Political Science Review*, 105(3): 552-566.
- Best, Heinrich and Maurizio Cotta eds., 2000, *Parliamentary Representatives in Europe 1848-2000*, New York: Oxford University Press.
- Black, Gordon S., 1972, "A Theory of Political Ambition," *American Political Science Review*, 66(1): 144-159.
- Brollo, Fernanda, Tommaso Nannicini, Roberto Perotti, and Guido Tabellini, 2013, "The Political Resource Curse," *American Economic Review*, 103(5): 1759-1796.
- Broockman, David E., 2014, "Mobilizing Candidates," *Journal of Experimental Political Science*, 1(2): 104-119.
- Broockman, David E., Nicholas Carnes, Melody Crowder-Meyer, and Christopher

- Skovron, 2021, "Why Local Party Leaders Don't Support Nominating Centrists," *British Journal of Political Science*, 51(2): 724-749.
- Campbell, David E. and Christina Wolbrecht, 2006, "See Jane Run," *Journal of Politics*, 68(2): 233-247.
- Campbell, Rosie and Sarah Childs, 2014, "Parents in Parliament," *Political Quarterly*, 85(4): 487-492.
- Carnes, Nicholas, 2018, *The Cash Ceiling*, Princeton, New Jersey: Princeton University Press.
- Carnes, Nicholas and Noam Lupu, 2015, "What Good Is a College Degree? Education and Leader Quality Reconsidered," *Journal of Politics*, 78(1): 35-49.
- Carnes, Nicholas and Noam Lupu, 2016, "Do Voters Dislike Working-Class Candidates? Voter Biases and the Descriptive Underrepresentation of the Working Class," *American Political Science Review*, 110(4): 832-844.
- Carnes, Nicholas and Eric R. Hansen, 2016, "Does Paying Politicians More Promote Economic Diversity in Legislatures?," *American Political Science Review*, 110(4): 699-716.
- Celis, Karen and Silvia Erzeel, 2020, "Gender Equality," Robert Rohrschneider and Jacques Thomassen eds., *The Oxford Handbook of Political Representation in Liberal Democracies*, New York: Oxford University Press, 192-210.
- Chandra, Kanchan, 2016, *Democratic Dynasties*, New York: Cambridge University Press.
- Chattopadhyay, Raghavendra and Esther Duflo, 2004, "Women as Policy Makers," *Econometrica*, 72(5): 1409-1443.
- Chhibber, Pradeep, 2013, "Dynastic parties," *Party Politics*, 19(2): 277-295.
- Clifford, Scott, Justin H. Kirkland and Elizabeth N. Simas, 2019, "How Dispositional Empathy Influences Political Ambition," *Journal of Politics*, 81(3): 1043-1056.
- Crenshaw, Kimberle, 1989, "Demarginalizing the Intersection of Race and Sex," *University of Chicago Legal Forum*, 1989(1), Article 8.
- Dahl, Robert A., 1971, *Polyarchy*, New Haven: Yale University Press. (高島通敏・前田脩訳, 2014, 『ポリアーキー』岩波書店.)
- Dahl, Malte and Jacob Nyrup, 2020, "Confident and Cautious Candidates," *European Journal of Political Research*, 60(1): 199-224.
- Dahlerup, Drude ed., 2006, *Women, Quotas and Politics*, London and New York: Routledge.
- Dal Bo, Ernesto, Pedro Dal Bo, and Jason Snyder, 2009, "Political Dynasties," *Review* (阪大法学) 74 (1-228) 228 [2024.5]

- of Economic Studies*, 76(1): 115–142.
- Dal Bo, Ernesto, Frederico Finan, Olle Folke, Torsten Persson, and Johanna Rickne, 2017, “Who Becomes a Politician?,” *Quarterly Journal of Economics*, 132(4): 1877–1914.
- Dal Bo, Ernesto and Frederico Finan, 2018, “Progress and Perspectives in the Study of Political Selection,” *Annual Review of Economics*, 10: 541–575.
- Dancygier, Rafaela, Karl-Oskar Lindgren, Pär Nyman, and Kåre Vernby, 2021, “Candidate Supply is Not a Barrier to Immigrant Representation,” *American Journal of Political Science*, 65(3): 683–698.
- De Paola, Maria and Vincenzo Scoppa, 2011, “Political Competition and Politician Quality,” *Public Choice*, 148(3): 547–559.
- Diamond, Larry and Leonardo Morlino, eds., 2005, *Assessing the Quality of Democracy*, Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Dolan, Kathleen, 2010, “The Impact of Gender Stereotyped Evaluations on Support for Women Candidates,” *Political Behavior*, 32(1): 69–88.
- Dynes, Adam M., Hans J. G. Hassell, and Matthew R. Miles, 2019, “The Personality of the Politically Ambitious,” *Political Behavior*, 41(2): 309–336.
- Eshima, Shusei and Daniel M. Smith, 2022, “Just a Number? Voter Evaluations of Age in Candidate Choice Experiments,” *Journal of Politics*, 84(3): 1856–1861.
- Eto, Mikiko, 2021, *Women and Political Inequality in Japan*, London and New York: Routledge.
- Evans, Elizabeth and Stefanie Reher, 2022, “Disability and Political Representation,” *International Political Science Review*, 43(5): 697–712.
- Ferraz, Claudio and Frederico Finan, 2008, “Motivating Politicians,” IZA Working Paper, 3411.
- Fisher, Stephen D., Anthony F. Heath, David Sanders, and Maria Sobolewska, 2014, “Candidate Ethnicity and Vote Choice in Britain,” *British Journal of Political Science*, 45(4): 883–905.
- Fisman, Raymond, Emir Kamenica, Nikolaj A. Harmon, and Inger Munk, 2015, “Labor Supply of Politicians,” *Journal of the European Economic Association*, 13(5): 871–905.
- Fox, Richard L. and Jennifer L. Lawless, 2004, “Entering the Arena? Gender and the Decision to Run for Office,” *American Journal of Political Science*, 48(2): 264–280.
- Fox, Richard L. and Jennifer L. Lawless, 2005, “To Run or Not to Run for Office,” *American Journal of Political Science*, 49(3): 642–659.

- Fox, Richard L. and Jennifer L. Lawless, 2010, "If Only They'd Ask," *Journal of Politics*, 72(2): 310-326.
- Fox, Richard L. and Jennifer L. Lawless, 2011, "Gaining and Losing Interest in Running for Public Office," *Journal of Politics*, 73(2): 443-462.
- Fulton, Sarah A., Cherie D. Maestas, L. Sandy Maisel, and Walter J. Stone, 2006, "The Sense of a Woman," *Political Research Quarterly*, 59(2): 235-248.
- Gagliarducci, Stefano and Tommaso Nannicini, 2013, "Do Better Paid Politicians Perform Better? Disentangling Incentives from Selection," *Journal of the European Economic Association*, 11(2): 369-398.
- Galasso, Vincenzo and Tommaso Nannicini, 2011, "Competing on Good Politicians," *American Political Science Review*, 105(1): 79-99.
- Gallagher, Michael and Michael Marsh eds., 1988, *Candidate Selection in Comparative Perspective*, London: Sage Publications.
- Gauja, Anika and William Cross, 2015, "The Influence of Party Candidate Selection Methods on Candidate Diversity," *Representation*, 51(3): 1-12.
- Gavoille, Nicolas and Marijn Vershelde, 2017, "Electoral Competition and Political Selection," *European Economic Review*, 92: 180-195.
- Gulzar, Saad, 2021, "Who Enters Politics and Why?," *Annual Review of Political Science*, 24: 253-275.
- Hall, Andrew B., 2015, "What Happens When Extremists Win Primaries?," *American Political Science Review*, 109(1): 18-42.
- Hassell, Hans J. G., 2018, "Principled Moderation," *Legislative Studies Quarterly*, 43(2): 343-369.
- Hayes, Danny, 2011, "When Gender and Party Collide," *Politics & Gender*, 7: 133-165.
- Hazan, Reuven Y. and Gideon Rahat, 2006, "The Influence of Candidate Selection Methods on Legislatures and Legislators," *Journal of Legislative Studies*, 12 (3-4): 366-385.
- Hazan, Reuven Y. and Gideon Rahat, 2010, *Democracy within Parties*, New York: Oxford University Press.
- Hopkin, Jonathan, 2001, "Bringing the Members Back In? Democratizing Candidate Selection in Britain and Spain," *Party Politics*, 7(3): 343-361.
- Hughes, Melanie M., 2011, "Intersectionality, Quotas, and Minority Women's Political Representation Worldwide," *American Political Science Review*, 105(3): 604-620.
- Hughes, Melanie M., 2013, "The Intersection of Gender and Minority Status in

- National Legislatures," *Legislative Studies Quarterly*, 38(4): 489-516.
- Hughes, Melanie M., 2016, "Electoral Systems and the Legislative Representation of Muslim Ethnic Minority Women in the West, 2000-2010," *Parliamentary Affairs*, 69(3): 548-568.
- Inglehart, Ronald and Pippa Norris, 2003, *Rising Tide*, New York: Cambridge University Press.
- Kage, Rieko, Frances M. Rosenbluth, and Seiki Tanaka, 2018, "What Explains Low Female Political Representation?," *Politics & Gender*, 15(2): 1-25.
- Keane, Michael P. and Antonio Merlo, 2010, "Money, Political Ambition, and the Career Decisions of Politicians," *American Economic Journal: Microeconomics*, 2(3): 186-215.
- Kittilson, Miki Caul, 1997, "Women's Representation in Parliament," *Party Politics*, 5(1): 79-98.
- Kotakorpi, Kaisa and Panu Poutvaara, 2011, "Pay for Politicians and Candidate Selection," *Journal of Public Economics*, 95(7-8): 877-885.
- Krook, Mona Lesa, 2009, *Quotas for Women in Politics*, New York: Oxford University Press.
- Krook, Mona Lena, 2018, "Electoral Systems and Women's Representation," Erik S. Herron, Robert J. Pekkanen and Matthew S. Shugart ed., *Oxford Handbook of Electoral Systems*, New York: Oxford University Press.
- Lamba, Sneha and Dean Spears, 2013, "Caste, 'Cleanliness' and Cash," *Journal of Development Studies*, 49(11): 1592-1606.
- Lawless, Jennifer L., 2015, "Female Candidates and Legislators," *Annual Review of Political Science*, 18: 349-366.
- Lawless, Jennifer L. and Richard L. Fox, 2015, *Running from Office*, New York: Oxford University Press.
- Levine, Daniel H. and Jose E. Molina eds., 2011, *The Quality of Democracy in Latin America*, Boulder: Lynne Rienner.
- Lijphart, Arend, 2012, *Patterns of Democracy*, New Haven: Yale University Press.
(柏谷祐子・菊池啓一訳, 2014, 『民主主義対民主主義』勁草書房.)
- Lundell, Krister, 2004, "Determinants of Candidate Selection," *Party Politics*, 10(1): 25-47.
- Mansbridge, Jane, 1999, "Should Blacks Represent Blacks and Women Represent Women? A Contingent 'Yes'," *Journal of Politics*, 61(3): 628-657.
- Mansbridge, Jane, 2015, "Should Workers Represent Workers?," *Swiss Political*

- Science Review*, 21(2): 261-270.
- Masket, Seth E., 2016, *The Inevitable Party*, New York: Oxford University Press.
- Matland, Richard E., 1998, "Women's Representation in National Legislatures," *Legislative Studies Quarterly*, 23(1): 109-125.
- Matland, Richard E. and Donley T. Studlar, 2004, "Determinants of Legislative Turnover," *British Journal of Political Science*, 34(1): 87-108.
- McClellan, Charles T. and Yoshikuni Ono, 2020, "How Do Voters Evaluate the Age of Politicians?," Working Paper.
- Niven, David, 2006, "Throwing Your Hat Out of the Ring," *Politics & Gender*, 2(4): 473-489.
- Norris, Pippa ed., 1997, *Passages to Power*, New York: Cambridge University Press.
- Norris, Pippa and Joni Lovenduski, 1995, *Political Recruitment*, New York: Cambridge University Press.
- Okura, Sae, 2021, "Explaining the Political Underrepresentation of People with Disabilities," *Social Science Japan Journal*, 24(2), 369-396.
- Ono, Yoshikuni and Masahiro Yamada, 2018, "Do Voters Prefer Gender Stereotypic Candidates? Evidence from a Conjoint Survey Experiment in Japan," *Political Science Research and Methods*, 8(3): 477-492.
- Persily, Nathaniel, 2015, *Solutions to Political Polarization in America*, New York: Cambridge University Press.
- Phillips, Anne, 1995, *The Politics of Presence*, New York: Oxford University Press.
- Phillips, Anne, 2020, "Descriptive Representation Revisited," Robert Rohrschneider and Jacques Thomassen eds., *The Oxford Handbook of Political Representation in Liberal Democracies*, New York: Oxford University Press, 175-191.
- Pitkin, Hanna Fenichel, 1967, *The Concept of Representation*, Berkeley: University of California Press. (早川誠訳, 2017, 『代表の概念』名古屋大学出版会.)
- Preece, Jessica and Olga Stoddard, 2015, "Why Women Don't Run," *Journal of Economic Behavior & Organization*, 117: 296-308.
- Put, Gert-Jan, Bart Maddens, and Frederik Verleden, 2015, "The within-district distribution of party candidates," *Acta Politica*, 52(2): 241-260.
- Querubin, Pablo, 2012, "Political Reform and Elite Persistence," APSA Annual Meeting Paper.
- Querubin, Pablo, 2016, "Family and Politics: Dynastic Persistence in the Philippines," *Quarterly Journal of Political Science*, 11(2): 151-181.
- Ruedin, Didier, 2009, "Ethnic Group Representation in a Cross-National Comparison," (阪大法学) 74 (1-232) 232 [2024.5]

- Journal of Legislative Studies*, 15(4): 335-354.
- Ruedin, Didier, 2020, "Regional and Ethnic Minorities," Robert Rohrschneider and Jacques Thomassen eds., *The Oxford Handbook of Political Representation in Liberal Democracies*, New York: Oxford University Press, 211-227.
- Sainsbury, Diane ed., 2000, *Gender and Welfare State Regimes*, New York: Oxford University Press.
- Sanbonmatsu, Kira, 2006, *Where Women Run*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Schlesinger, Joseph A., 1966, *Ambition and Politics*, Chicago: Rand McNally.
- Schumpeter, Joseph A., 1942, *Capitalism, Socialism, Democracy*, New York: Harper and Brothers. (中山伊知郎・東畑精一訳, 1995, 『資本主義・社会主義・民主主義』東洋経済新報社.)
- Shomer, Yael, 2014, "What Affects Candidate Selection Processes? A Cross-National Examination," *Party Politics*, 20(4): 533-546.
- Shomer, Yael, Gert-Jan Put, and Einat Gedalya-Lavy, 2016, "Intra-Party Politics and Public Opinion," *Political Behavior*, 38(3): 509-534.
- Shugart, Matthew Soberg, Melody Ellis Valdini, and Kati Suominen, 2005, "Looking for Locals," *American Journal of Political Science*, 49(2): 437-449.
- Siim, Birte, 2000, *Gender and Citizenship*, New York: Cambridge University Press.
- Smith, Daniel M., 2018, *Dynasties and Democracy*, California: Stanford University Press.
- Stockemer, Daniel and Aksel Sundstrom, 2018, "Age Representation in Parliaments," *European Political Science Review*, 10(3): 467-490.
- Stockemer, Daniel and Aksel Sundstrom, 2022, *Youth Without Representation*, Ann Arbor: University of Michigan Press.
- Stokes, Donald E., 1963, "Spatial Models of Party Competition," *American Political Science Review*, 57(2): 368-377.
- Sundstrom, Aksel and Daniel Stockemer, 2020, "Conceptualizing, Measuring, and Explaining Youths' Relative Absence in Legislatures," *PS: Political Science & Politics*, 54(2): 1-7.
- Thomsen, Danielle M., 2014, "Ideological Moderates Won't Run," *Journal of Politics*, 76(3): 786-797.
- Van Der Zwan, R., 2019, *The Political Representation of Ethnic Minorities and Their Vote Choice*, PhD thesis, Nijmegen: Radboud University.
- Waltz, Mitzi, and Alice Schippers, 2021, "Politically Disabled," *Disability & Society*,

36(4): 517-540.

Wangnerud, Lena, 2009, "Women in Parliaments," *Annual Review of Political Science*, 12: 51-69.

Yu, Ching-Hsin, Eric Chen-Hua Yu, and Kaori Shoji, 2014, "Innovations of Candidate Selection Methods," *Japanese Journal of Political Science*, 15(4): 635-659.

- (13) セクシャルマイノリティについての分析も今後、行われていく必要があると考えられる。
- (14) 女性の記述的代表を左右する要因としては、本稿で扱った需要の主体としての政党、有権者、志願者の供給、選挙制度以外にも、ジェンダー平等意識 (Inglehart and Norris 2003)、福祉国家レジーム (Sainsbury ed. 2000; Siim 2000)、ジェンダー・クォータ (Dahlerup ed. 2006; Krook 2009; 三浦・衛藤編 2014) が指摘されている。
- (15) 日本を対象とした移民・エスニックマイノリティの過少代表についての分析はほとんど行われていないが、この点に関して、Eto(2021) はアイヌ民族の過少代表に着目する重要性を指摘している。アイヌ民族の国会議員は、1994年から98年にかけて参議院議員を務めた萱野茂が唯一である。
- (16) この点に関しては、政治的リーダーシップ研究が、政治家の能力や質を扱うという意味で関連する論点を扱ってきた (伊藤・田中・真淵 2000)。